

ARIBの動き

MMACフォーラム講演会2009が開催される

2月12日にマルチメディア移動アクセスフォーラムの主催、当会の後援及びIEEE東京支部の協賛により、“MMACフォーラム講演会2009”が明治記念館において開催されました。

マルチメディア移動アクセスフォーラム (MMACフォーラム) は、マルチメディアを「いつでも、どこでも」取り扱うことができ、光ファイバ等とシームレスな接続が可能で、持ち運びできる超高速・高品質な無線アクセスシステムであるマルチメディア移動アクセス (MMAC) の開発を目標として、調査研究、システム仕様検討、実証実験、情報交流及び普及啓発活動等を行っております。本講演会は、無線アクセスシステムの可能性を広く知っていただき、MMACの一層の活性化に役立てていただくことを目的に開催されました。

今回の講演会では、MMACフォーラム会長の齊藤忠夫東京大学名誉教授から開会の挨拶をいただいた後、6名の講師にご講演をいただき、ワイヤレスブロードバンド、IEEE802.11、ECMAにおけるミリ波無線規格標準化、広域ユビキタスネットワーク、無線アドホックネットワークの医療応用及び周波数利用効率向上を目指す新たな変復調技術研究等について分かりやすく解説していただきました。

200名を越える方々の参加があり、各講演の後には、活発な質疑応答がなされました。

(注：MMACフォーラムはMMACの早期実現を図るため、MMACに関する調査研究、システムの仕様検討及び実証実験並びに周波数確保のための提言等を行っている任意団体で、現在の会員数は85社です。ARIBはMMACフォーラムの事務局を務めています。)



“MMACフォーラム講演会2009”の様子と齊藤忠夫MMACフォーラム会長

くご講演いただいた方々。【】内は講演タイトル>



総務省
 移動通信課長 竹内芳明氏
 【ワイヤレスブロードバンドの動向】



日本電信電話株式会社
 主幹研究員 眞部利裕氏
 【IEEE802.11の動向】



パナソニック株式会社
 チェアマン - 高橋和晃氏
 【ECMAにおけるミリ波無線規格標準化動向】



日本電信電話株式会社
 主幹研究員 加々見修氏
 【広域ユビキタスネットワークの動向】



横浜国立大学
 未来情報通信医療社会基盤センター
 センター長 河野隆二氏
 【無線アドホックネットワークの医療応用；BANの研究開発と標準化】



早稲田大学
 客員教授 太田現一郎氏
 【周波数利用効率向上を目指す新たな変復調技術研究の必要性と一例のご紹介】

第148回業務委員会が開催される

第148回業務委員会が開催されましたので、その概要をお知らせします。

- 1 日時：平成21年2月18日（水）午後2時から3時30分まで
- 2 場所： 当会第2会議室
- 3 議事概要

次の事項について事務局から報告・説明がありました。

- (1) 第44回理事会及び第27回通常総会
- (2) 3.9世代移動通信システムの導入のための特定基地局の開設に関する指針案等に対する意見募集
- (3) 一部の形態のBS放送受信システムの電波干渉問題
- (4) 当会の活動状況

電気通信・放送行政の動き

一部の形態のBS放送受信システムの電波干渉問題について

(平成21年2月13日総務省報道発表)

総務省は、一部の形態のBS放送受信システムで、平成23年以降に使用開始を予定するBS21チャンネル及び23チャンネルの電波を受信した際に、同システムから漏えいした電波が他の無線システム等に干渉を与える可能性があるという事実を確認し、関係者とともに「一部の形態のBS放送受信システムの電波干渉問題に関する連絡会」を設置し、対策について検討を進めてきました。

このたび、同連絡会において「対策実施協議会」の設置の決定等がありましたので、お知らせします

1 経緯

現在、我が国には、BS放送用周波数として、国際調整手続を経て12周波数が割り当てられていますが、このうち4周波数（17、19、21及び23チャンネル）については現在使用されておらず、平成19年7月の電波監理審議会答申等を受け、平成23年以降、BSデジタル放送のために使用を開始すること等が決定されています。

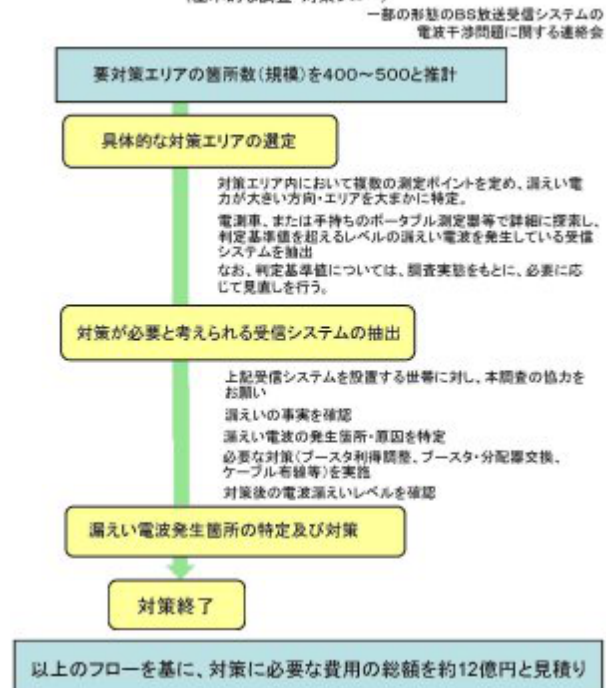
これを受け、平成20年1月末から2月初めにかけて、これらの4周波数のうち2周波数（21チャンネル及び23チャンネル）を使用して、当時、情報通信審議会において審議中であった、BSデジタル放送等に適用可能な新たな放送方

式の検討のための実験電波を発射したところ、携帯電話サービスを提供する電気通信事業者から、携帯電話（1.5GHz帯PDC）基地局の一部において受信障害が発生しているとの報告があったため、同実験を直ちに停止しました。

その後、関係者及び総務省が協力して実態調査を行ったところ、屋外設置型のBS放送受信用増幅器を使用している一部の形態のBS放送受信システムで、BS21又はBS23チャンネルの電波を受信した際に、同システムから漏えいした電波が既存の携帯電話等の無線システム等に干渉を与える可能性があるという事実を確認しました。

これを受け、総務省は、平成20年5月30日に、関係者とともに「一部の形態のBS放送受信システムの電波干渉問題に関する連絡会」を設置し、これまで、対応策について検討を進めてきました。

一部の形態のBS放送受信システムの調査・対策について
(基本的な調査・対策フロー)



2 「対策実施協議会」の設置の検討等

連絡会において、調査・対策フロー及び対策費用総額の概算が取りまとめられたことを受け、本連絡会の下に、対策の実施を実際に担う関係者により構成する「対策実施協議会」を設置することが決定されました。

なお、この対策実施協議会の設置に先立ち、同協議会が実施する対策に必要な費用（総額は概算で約12億円）について、連絡会構成員である株式会社放送衛星システムより、総務省に対し、「BSデジタル放送の普及・発展を支え周波数の有効利用を推進するために、基本的に弊社が分担する用意がある」旨の提案がありました。

これを受け、総務省は、連絡会の他の構成員に対する協力要請を行いました。

3 今後のスケジュール

対策及び手続が想定どおり順調に進められた場合の今後のスケジュールは以下のとおりです。

平成21年 4月頃	協議会による調査・対策の開始
平成22年 3月頃	協議会による調査・対策の終了
平成22年 4月頃	協議会から連絡会への対策実施報告、連絡会による当該報告の承認（*1）
平成22年 5月頃 （*2）	BS21・23チャンネルに係る委託放送業務認定申請の受付開始
平成22年 9月頃	BS21・23チャンネルに係る委託放送業務の認定
平成23年～平成24年 （*3）	BS21・23チャンネルに係る新たなBSデジタル放送の放送開始

*1 3ページの図に掲げる調査・対策フローに基づき調査・対策が適切に実施されたことを承認するもの。

*2 今回のBS5、7、11及び19チャンネルに係る委託放送業務認定申請の受付開始時点では、本件調査・対策が終了していないことから、BS21・23チャンネルについては、今回の申請受付の対象からは除外することとなる。

*3 対策が予定どおり順調に行われた場合の放送開始時期は、早ければ平成23年10月1日（目途）、遅くとも平成24年9月頃を想定している。

なお詳細については<http://www.soumu.go.jp/s-news/2009/090213_3.html>を参照してください。

編集後記

最近、マスク姿の人を多く見かけます。風邪はピークを越えたようですが、花粉症はこれから本番の季節迎え、悩まされている方も多いのではないのでしょうか？また、風邪と花粉症は症状が似ており、なかなか識別するのが難しいようです。

ということで、風邪と花粉症の区別について調べてみました。風邪の症状は大体鼻風邪からはじまり微熱、喉の痛み、鼻水が粘くなって大体10日くらいで治りますが、花粉症は風邪のひきかけの状態がずっと続くのが特徴のようです。また、風邪の場合には持続する目のかゆみはあまりないようですが、花粉症ではこの持続する目のかゆみを伴うことが多いようです。

何れにせよ、風邪と花粉症では対処方法が全く異なります。症状が出たら早めに医者に行き調べてもらった方が良いでしょう。

(N.K.)